



モジュールタイプ調節計 SRZ

PLC 通信簡易取扱説明書

通信拡張モジュール Z-COM [準備編]

IMS01T14-J5

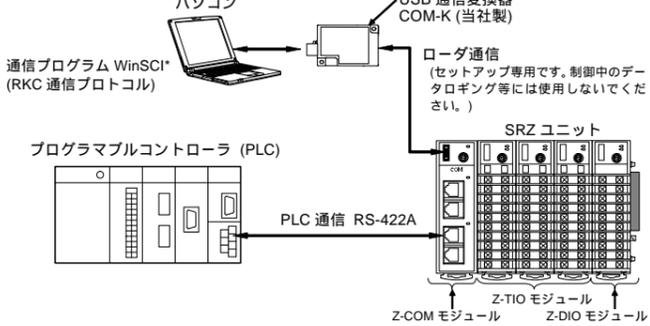
All Rights Reserved, Copyright © 2006, RKC INSTRUMENT INC.

本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みいただき、内容を理解された上でご使用ください。なお、本書は大切に保管し、必要なおきに活用ください。

1. 概要

本書は、以下の設定例を用いて、SRZユニットとプログラマブルコントローラ (PLC) を接続する場合について説明しています。PLC と通信を行えるようにするためには、PLC 通信環境の設定が必要となります。PLC 通信環境設定は、ホスト通信またはローダ通信 (本説明書では、ローダ通信で説明しています) で設定するため、パソコン、USB 通信変換器 COM-K および SRZ ユニットの接続が必要です。

[PLC 通信例]



* WinSCI は、当社のホームページからダウンロードできます。また、WinSCI の他にも、PROTEM2 や WinUCI-SRZ がご利用いただけます。

本書は Z-COM モジュールで PLC 通信を行うための準備について説明したもので、データマップ、ホスト通信、設置・配線および詳細な取り扱いや各機能の説明については、必要に応じて、以下に示す取扱説明書を参照してください。

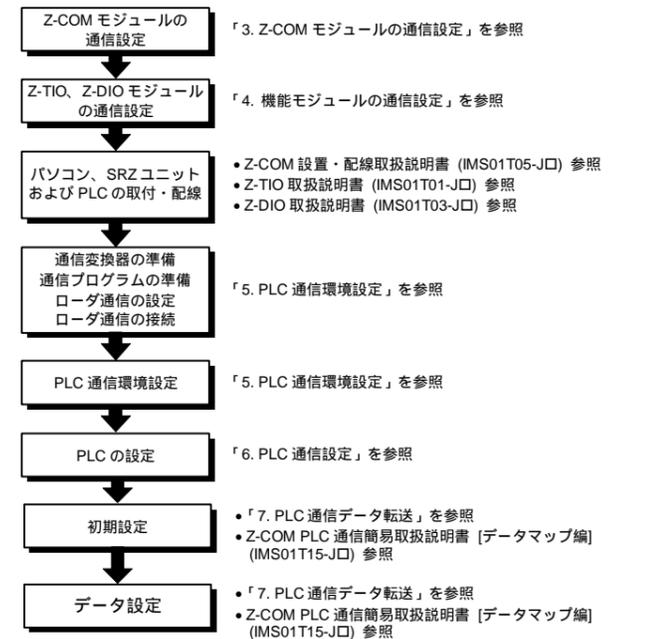
- Z-COM 設置・配線取扱説明書 (IMS01T05-J0): 製品添付
- Z-COM ホスト通信簡易取扱説明書 (IMS01T09-J0): 製品添付
- Z-COM PLC 通信簡易取扱説明書 [データマップ編] (IMS01T15-J0): 製品添付
- Z-COM 取扱説明書 (IMS01T22-J0): 別冊*
- Z-COM ホスト通信取扱説明書 (IMS01T23-J0): 別冊*
- Z-TIO 取扱説明書 (IMS01T01-J0): Z-TIO 製品添付
- Z-TIO ホスト通信簡易取扱説明書 (IMS01T02-J0): Z-TIO 製品添付
- Z-DIO 取扱説明書 (IMS01T03-J0): Z-DIO 製品添付
- SRZ 取扱説明書 (IMS01T04-J0): 別冊*

* ダウンロードまたは別売り

Z-COM モジュールと Z-CT モジュールを連結して使用する場合には、Z-COM 取扱説明書 (IMS01T22-J0) または Z-CT 取扱説明書 [詳細版] (IMS01T21-J0) を参照してください。

別冊の説明書は、当社ホームページからダウンロードできます。ホームページアドレス: http://www.rkcinst.co.jp/down_load.htm

2. 取扱手順



3. Z-COM モジュールの通信設定

Z-COM モジュールの取り付け、配線を行う前に、通信の設定を行ってください。

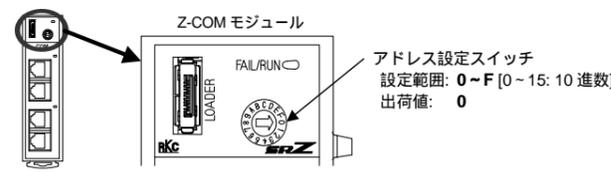
注意

電源 ON 状態で、モジュール本体をベースから引き抜かないでください。機器故障の原因となります。

3.1 ユニットアドレス設定

SRZ ユニットアドレスを設定します。設定は小型のマイナスドライバを使用します。本書の例では、ユニットアドレスを「0」に設定します。

同一ライン上では、アドレスが重複しないように設定してください。アドレスが重複すると機器故障や誤動作の原因となります。



■ PLC 通信時のアドレス設定

PLC の 1 つの通信ポートに対して、Z-COM モジュールは 4 台まで接続できます。このため、ユニットアドレスは、4 台を 1 グループとして使用します。同じ PLC の通信ポートにマルチドロップ接続される Z-COM モジュールは、下表の 4 グループの内、いずれか 1 グループの連続した番号をアドレスとして使用してください。

各グループのアドレスには、必ず 0、4、8 または C を含めて設定してください。0、4、8 または C が通信切換のマスタになります。

PLC と SRZ ユニットの 1 対 1 で接続する場合は、出荷値の「0」で使用してください。

| グループ | アドレス設定スイッチ | グループ | アドレス設定スイッチ |
|-------|------------|-------|------------|
| グループ1 | 0 (マスタ) | グループ3 | 8 (マスタ) |
| | 1 | | 9 |
| | 2 | | A |
| | 3 | | B |
| グループ2 | 4 (マスタ) | グループ4 | C (マスタ) |
| | 5 | | D |
| | 6 | | E |
| | 7 | | F |

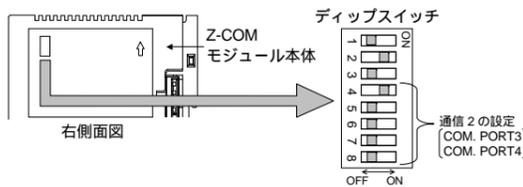
■ ローダ通信時のアドレス設定

ローダ通信の場合は、コンピュータと SRZ ユニットが 1 対 1 で通信を行うため、ユニットアドレスは「0」固定です。アドレス設定スイッチが 0 以外に設定されていても、通信上はユニットアドレス 0 で通信を行います。

3.2 プロトコル選択と通信速度設定

ディップスイッチで、Z-COM モジュールの通信速度、データビット構成、および通信プロトコルを設定します。本書の例では、PLC 通信を行いますので、通信 2 (COM. PORT3、COM. PORT4) の設定を行います。

ディップスイッチの設定は、Z-COM モジュールの電源を再度 ON にするか、または制御を STOP から RUN にすることで有効になります。



■ ディップスイッチの内容

● 通信 1 (COM. PORT1、COM. PORT2) の設定

スイッチ No.1、No.2 および No.3 で、通信 1 の通信速度、通信プロトコル、データビット構成を設定します。

| 1 | 2 | 通信速度 |
|-----|-----|-----------------|
| OFF | OFF | 4800 bps |
| ON | OFF | 9600 bps |
| OFF | ON | 19200 bps (出荷値) |
| ON | ON | 38400 bps |

| 3 | 通信プロトコル、データビット構成 |
|-----|---|
| OFF | ホスト通信 (RKC 通信) データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット (出荷値) |
| ON | ホスト通信 (MODBUS 通信) データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット |

* 通信プロトコルを注文時に指定しなかった場合の出荷値です。

● 通信 2 (COM. PORT3、COM. PORT4) の設定

スイッチ No.4、No.5、No.6 および No.7 で、通信 2 の通信速度、通信プロトコル、データビット構成を設定します。

| 4 | 通信速度 |
|-----|-----------------|
| OFF | 9600 bps |
| ON | 19200 bps (出荷値) |

| 5 | 6 | 7 | 通信プロトコル、データビット構成 |
|-----|-----|-----|---|
| OFF | OFF | OFF | ホスト通信 (RKC 通信) データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット (出荷値) |
| ON | OFF | OFF | ホスト通信 (MODBUS 通信) データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット |
| OFF | ON | OFF | PLC 通信 三菱電機 MELSEC シリーズ 専用プロトコル ● A 互換 1C フレーム (形式 4) AnA/AnUCPU 共通コマンド (QR/QW) ● QnA 互換 3C フレーム (形式 4) コマンド (0401/1401) ZR レジスタのみ使用可能 データ 7 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット |
| ON | ON | OFF | PLC 通信 オムロン SYMAC シリーズ 専用プロトコル C モードコマンド (RD/Wd、REWE) データ 7 ビット、偶数パリティ、ストップ 2 ビット |
| OFF | OFF | ON | PLC 通信 三菱電機 MELSEC シリーズ 専用プロトコル A 互換 1C フレーム (形式 4) ACPU 共通コマンド (WRWW) データ 7 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット |
| ON | OFF | ON | PLC 通信 横河電機 FA-M3R 専用プロトコル データ 8 ビット、パリティなし、ストップ 1 ビット |
| OFF | ON | ON | 設定しないでください。 |
| ON | ON | ON | |

* 通信プロトコルを注文時に指定しなかった場合の出荷値です。

通信速度、通信プロトコル、データビット構成の設定は、ローダ通信またはホスト通信でも行えます。通信データについては、裏面の Z-COM モジュールの通信設定データを参照してください。

● ディップスイッチ設定の有効/無効

ホスト通信またはローダ通信での設定を有効にする場合は、スイッチ No.8 を「ON」にします。「ON」に設定すると、ディップスイッチの設定内容は無効になります。

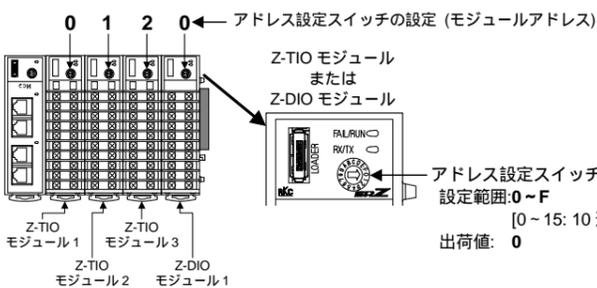
| 8 | ディップスイッチ設定の有効/無効 |
|-----|------------------------------------|
| OFF | ディップスイッチ設定有効 (出荷値) |
| ON | ディップスイッチ設定無効 (ホスト通信またはローダ通信の設定に従う) |

4. 機能モジュールの通信設定

4.1 Z-TIO、Z-DIO モジュールのアドレス設定

Z-TIO、Z-DIO モジュールの通信設定は、モジュールアドレスの設定のみ行ってください。SRZ ユニットは、Z-COM モジュールと機能モジュール間で内部通信を行っているため、Z-TIO、Z-DIO モジュールの通信プロトコル、通信速度、データビット構成を設定する必要がありません。モジュールアドレスは機能モジュールの種類ごとに設定します。本書の例では、下図のモジュールアドレスに設定します。

同一ライン上の同じ種類のモジュールでは、アドレスが重複しないように設定してください。アドレスが重複すると機器故障や誤動作の原因となります。

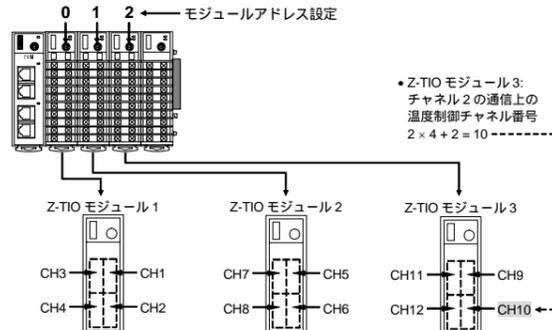


4.2 SRZ ユニットの温度制御チャンネルについて

Z-TIO モジュールのアドレスを設定すると、通信上の温度制御チャンネル番号が決定します。Z-TIO モジュールのアドレスに対して、温度制御チャンネルが固定で割り付けられています。温度制御チャンネル番号は以下の式で算出できます。

通信上の温度制御チャンネル番号 = [モジュールアドレス設定] × [機能モジュールの最大チャンネル数] + [モジュール内のチャンネル番号]
* 設定が A-F の場合は、10 進数にします。
* Z-TIO モジュールの場合は「4」で計算します。

例: Z-TIO モジュール (4 チャンネルタイプ) を 3 台連結している場合

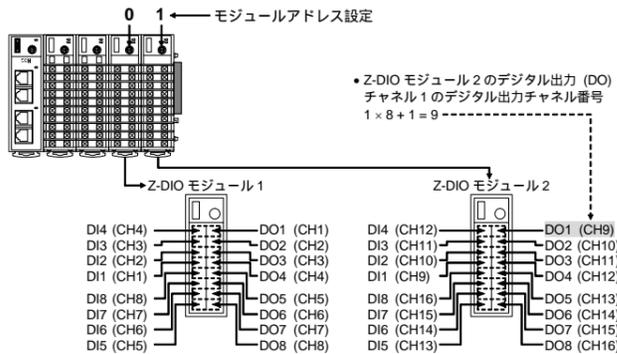


4.3 Z-DIO モジュールのデジタル入出力チャンネルについて

Z-DIO モジュールのアドレスを設定すると、Z-DIO モジュールのデジタル入出力チャンネル番号が決定します。Z-DIO モジュールのアドレスに対して、チャンネルが固定で割り付けられています。チャンネル番号は以下の式で算出できます。

デジタル入出力チャンネル番号 = [モジュール内の入力 (出力) チャンネル番号] + [モジュール内の入力 (出力) チャンネル番号]
* 設定が A-F の場合は、10 進数にします。
* Z-DIO モジュールの場合は「8」で計算します。

例: Z-DIO モジュールを 2 台連結している場合



5. PLC 通信環境設定

PLC 通信を行うためには、PLC 通信環境 (システムデータ) の設定が必要です。システムデータの設定は、ローダ通信 (ホスト通信でも可能) によって設定します。システムデータには、設定項目 (裏面の表 1 参照) とモニタ項目があります。モニタ項目は、PLC のレジスタに領域 (8 ワード分) が必要です。ローダ通信を行うには、通信プログラムが必要です。通信プログラムは、通信サポートソフトウェア「WinSCI」が利用できます。また「WinSCI」の他に「PROTEM2」や「WinUCI-SRZ」も使用できます。

モニタ項目については、別冊の Z-COM PLC 通信簡易取扱説明書 [データマップ編] (IMS01T15-J0) を参照してください。

5.1 通信変換器の準備

ローダ通信を行うために、当社製の変換器と通信ケーブルをご用意ください。

- USB 通信変換器 COM-K (USB ケーブル付き)*
 - ローダ通信ケーブル W-BV-01 [オプション]
- * COM-K を使用するには、パソコンに USB ドライバのインストールが必要です。USB ドライバは当社ホームページからダウンロードしてください。

5.2 通信プログラムの準備

「WinSCI」を、当社ホームページからパソコンにダウンロードしてください。また、「WinSCI」を使用するには、コンフィグレーションファイル (CFG ファイル) が必要です。コンフィグレーションファイル (CFG ファイル) については、当社営業所または代理店までお問い合わせください。

ダウンロードするもの: 通信サポートソフトウェア「WinSCI」

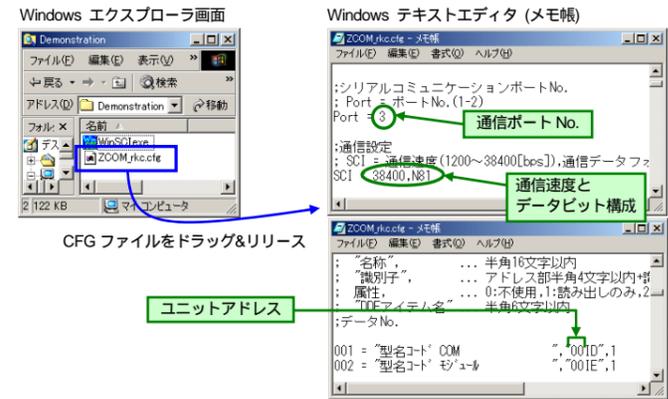
5.3 ローダ通信の設定

ローダ通信のユニットアドレス、通信速度とデータビット構成は、下記の値で固定です。

- ユニットアドレス: 0
- 通信速度: 38400 bps
- データビット構成: データ 8 ビット、パリティビットなし、ストップ 1 ビット

WinSCI を使用してローダ通信を行う場合は、CFG ファイルの通信ポート No. を、パソコンの通信ポート No. と同じ値に設定してください。また、ユニットアドレス、通信速度、データビット構成が上記の値であることを確認してください。異なる場合は CFG ファイルの値を変更してください。WinSCI は、CFG ファイルに書かれている通信設定で通信を行います。パソコンの通信設定は無視されます。

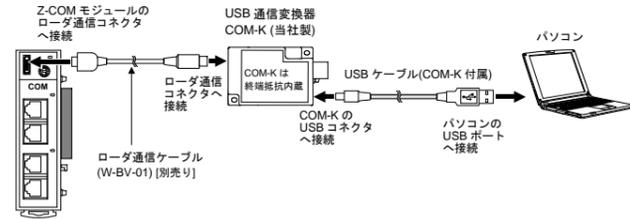
CFG ファイルは、Windows のテキストエディタ (メモ帳など) で編集できます。CFG ファイルをドラッグ&リリースしてテキストエディタで開き、通信ポート No. を変更します。通信ポート No. を変更した後、CFG ファイルを上書き保存してください。



Z-COM モジュール本体は、ローダ通信の設定はありません。

5.4 ローダ通信の接続

パソコンとSRZユニットを接続します。パソコンとZ-COMモジュールの間に、USB通信変換器COM-Kを接続します。



5.5 システムデータ (設定項目) の設定

- SRZユニットの電源をONにします。(PLCの電源はOFF)
- WinSCIを起動します。WinSCI.exe () をダブルクリックすると、ファイル選択画面が開きます。
- ファイル選択画面で、CFGファイルを開きます。

表1を参考にして、システムデータ (設定項目) の設定を行ってください。

■ CFG ファイル画面例:

| 通信データ名称 | ページ番号 | データ設定欄 |
|--------------|-------|--------|
| 通信1アドレス | 0 | ch1 |
| 通信1通信速度 | 2 | ch2 |
| 通信1データビット構成 | 10 | ch3 |
| 通信2アドレス | 0 | ch4 |
| 通信2通信速度 | 2 | |
| 通信2データビット構成 | 10 | |
| 通信2インタール時間 | 10 | |
| 通信2アドレス | 0 | |
| 通信2通信速度 | 255 | |
| 通信2データビット構成 | 0 | |
| 通信2インタール時間 | 0 | |
| COM-Kの電源設定時間 | 10 | |
| PLCコマンドの設定 | 255 | |
| PLC通信開始時間 | 5 | |
| 接続台数自動取得 | 1 | |
| 255コマンドの方法 | 0 | |

表1の名称欄の番号 (1)~(10) が、上記の表の通信データ名称と対応しています。

- ページ番号の切り換え方法: キーボードの「Page Up」または「Page Down」によって切り換えます。

- 数値の変更方法: 変更する数値にマウスのポインタを合わせ、ダブルクリックします。入力画面が開きますので、パソコンのキーボードで数値を変更します。「OK」をクリックすると、数値が登録されます。



表1 システムデータ (設定項目) R/W: 読み出し/書き込み可能

| 名称 | RKC通信識別子 | MODBUSレジスタアドレス | 桁数 | 属性 | データ範囲とデータ数 | 出荷値 |
|--------------------------------------|----------|----------------|-------|-------|--|---------------------|
| (1) 局番 [ステーション番号] | QV | 8008 | 32776 | 7 R/W | 0~31 (三菱、オムロンPLCの場合) 1~31 (横河PLCの場合) | 三菱、オムロン: 0 横河: 1 |
| (2) PC番号 ¹ [CPU番号] | QW | 8009 | 32777 | 7 R/W | 0~255 (三菱PLCの場合) 1~4 (横河PLCの場合) | 三菱: 255 横河: 1 |
| (3) レジスタ種類 ² | QZ | 800A | 32778 | 7 R/W | 三菱電機製 MELSEC シリーズ 0: D レジスタ 1: R レジスタ 2: W レジスタ 3: ZR レジスタ (R レジスタの 32767 を超えたときの連番指定方法) 4~29: 不使用 オムロン製 SYSMAC シリーズ 0: DM レジスタ (データメモリ) 1~9: 不使用 10~22: EM レジスタ (拡張データメモリ) [バンク No.指定] バンク No. +10 を設定してください。 23~28: 不使用 29: EM レジスタ (拡張データメモリ) [カレントバンク指定] 横河電機 FA-M3R 0: D レジスタ (データレジスタ) 1: R レジスタ (共有レジスタ) 2: W レジスタ (リンクレジスタ) 3: 不使用 4: B レジスタ (ファイルレジスタ) 5~29: 不使用 | 0 |
| (4) レジスタ開始番号 ^{2,3} (上位4ビット) | QS | 800B | 32779 | 7 R/W | 0~15: QnA 互換 3C フレームの場合 | 0 |

¹ オムロン SYSMAC シリーズの場合は不使用となります。
² 使用する CPU の種類によって、使用可能なレジスタの範囲や種類が異なります。実際に使用可能なレジスタの範囲や種類については、PLC の取扱説明書を参照してください。
³ ZR レジスタを選択した場合のみ有効です。

| 名称 | RKC通信識別子 | MODBUSレジスタアドレス | | 桁数 | 属性 | データ範囲とデータ数 | 出荷値 |
|-------------------------------------|----------|----------------|-------|-------|---|------------|-----|
| | | HEX | DEC | | | | |
| (5) レジスタ開始番号 ¹ (下位16ビット) | QX | 800C | 32780 | 7 R/W | 三菱電機 A 互換 1C フレーム ACPU 共通コマンド (WR/WW)、オムロン SYSMAC シリーズの場合 0~65535: 三菱電機 A 互換 1C フレーム AnA/AnUCPU 共通コマンド (QR/QW)・QnA 互換 3C フレームコマンド (0401/1401)、横河電機 FA-M3R の場合 | 1000 | |
| (6) システムデータアドレスハイラス ^{1,2} | QQ | 800D | 32781 | 7 R/W | 0~65535: (オムロン SYSMAC シリーズの場合: 0~9999) | 2100 | |
| (7) COMモジュールリンク認識時間 ² | QT | 800E | 32782 | 7 R/W | 0~255 秒 | 10 | |
| (8) PLC スキャンタイム | VT | 800F | 32783 | 7 R/W | 0~3000 ms | 255 | |
| (9) PLC 通信開始時間 | R5 | 8010 | 32784 | 7 R/W | 1~255 秒 | 5 | |
| (10) スレーブマッピング方法 ³ | RK | 8012 | 32786 | 7 R/W | 0: アドレス設定スイッチによるハイラス [レジスタアドレス + (アドレス設定スイッチの設定値 / 4 の余り) × システムデータアドレスハイラス] 1: ハイラス無効 | 0 | |

¹ 使用する CPU の種類によって、使用可能なレジスタの範囲や種類が異なります。実際に使用可能なレジスタの範囲や種類については、PLC の取扱説明書を参照してください。
² PLC と SRZ ユニットの 1 対 1 で接続する場合は、出荷値で使用します。
³ 出荷値で使用します。

- SRZユニットの電源をOFFにし、再度電源をONにします。電源をONにすると、変更したシステムデータの値が有効になります。

■ Z-COM モジュールの通信設定データ

Z-COMモジュールの通信プロトコル、通信速度およびデータビット構成の設定は、ローダ通信またはホスト通信でも行えます。

- ローダ通信またはホスト通信での設定を有効にする場合は、ディップスイッチのスイッチ No.8 を「ON」にします。「ON」に設定すると、ディップスイッチの設定内容は無効になります。

- 通信設定データを変更した場合は、電源を再度ONにするか、または制御をSTOPからRUNにしないと有効になりません。

R/W: 読み出し/書き込み可能

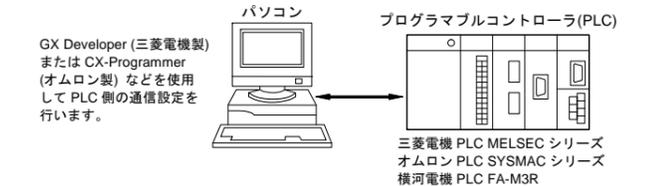
| 名称 | RKC通信識別子 | MODBUSレジスタアドレス | 桁数 | 属性 | データ範囲とデータ数 | 出荷値 |
|-------------|----------|----------------|-------|-------|--|-----|
| 通信1プロトコル | VK | 8000 | 32768 | 1 R/W | 0: RKC 通信 1: MODBUS | 0 |
| 通信1通信速度 | VL | 8001 | 32769 | 1 R/W | 0: 4800 bps 1: 9600 bps 2: 19200 bps 3: 38400 bps | 2 |
| 通信1データビット構成 | VM | 8002 | 32770 | 7 R/W | MODBUS: 0~2 RKC 通信: 0~5 データビット構成表を参照 | 0 |
| 通信1インタール時間 | VN | 8003 | 32771 | 7 R/W | 0~250 ms | 10 |
| 通信2プロトコル | VP | 8004 | 32772 | 1 R/W | 0: RKC 通信 1: MODBUS 2: 三菱電機 MELSEC シリーズ専用プロトコル • A 互換 1C フレーム (形式 4) AnA/AnUCPU 共通コマンド (QR/QW) • QnA 互換 3C フレーム (形式 4) コマンド (0401/1401) ZR レジスタのみ使用可能 3: オムロン SYSMAC シリーズ専用プロトコル 4: 三菱電機 MELSEC シリーズ専用プロトコル A 互換 1C フレーム (形式 4) ACPU 共通コマンド (WR/WW) 5: 横河電機 FA-M3R 専用プロトコル | 0 |
| 通信2通信速度 | VU | 8005 | 32773 | 1 R/W | 0: 4800 bps 1: 9600 bps 2: 19200 bps 3: 38400 bps | 2 |
| 通信2データビット構成 | VW | 8006 | 32774 | 7 R/W | MODBUS: 0~2 RKC 通信: 0~5 PLC 通信: 0~11 データビット構成表を参照 | 0 |
| 通信2インタール時間 | VX | 8007 | 32775 | 7 R/W | 0~250 ms | 10 |

| 設定値 | データビット | パリティビット | ストップビット | MODBUS | RKC 通信 | PLC 通信 |
|-----|--------|---------|---------|--------|--------|--------|
| 0 | 8 | なし | 1 | 設定可能 | 設定可能 | 設定可能 |
| 1 | 8 | 偶数 | 1 | | | |
| 2 | 8 | 奇数 | 1 | | | |
| 3 | 7 | なし | 1 | | | |
| 4 | 7 | 偶数 | 1 | | | |
| 5 | 7 | 奇数 | 1 | 設定不可 | 設定不可 | 設定可能 |
| 6 | 8 | なし | 2 | | | |
| 7 | 8 | 偶数 | 2 | | | |
| 8 | 8 | 奇数 | 2 | | | |
| 9 | 7 | なし | 2 | | | |
| 10 | 7 | 偶数 | 2 | 設定不可 | 設定不可 | 設定可能 |
| 11 | 7 | 奇数 | 2 | | | |

6. PLC 通信設定

PLC側の通信設定を行います。

- 使用する PLC によって設定項目が異なります。詳細は、使用する PLC の取扱説明書を参照してください。



■ 三菱電機株式会社製 PLC MELSEC シリーズ

推奨する設定例

| 項目 | 内容 | 項目 | 内容 |
|------------------|-------------|-----------|---------------|
| プロトコル | 形式4プロトコルモード | パリティビット | なし |
| 局番 | 00 | ストップビット | 1ビット |
| 計算機リンク/マルチドロップ選択 | 計算機リンク | サムチェックコード | あり |
| 伝送速度 | Z-COMと同じ設定 | RUN中書き込み | 許可 |
| 動作設定 | 独立 | 設定変更 | 許可 |
| データビット | 7ビット | 終端抵抗 | PLC付属の終端抵抗を接続 |

■ オムロン株式会社製 PLC SYSMAC シリーズ

推奨する設定例

| 項目 | 内容 | 項目 | 内容 |
|-----------------|---------|----------|------------|
| シリアル通信モード | 上位リンク | 伝送速度 | Z-COMと同じ設定 |
| ユニット番号 (号機 No.) | 0 | 入出力ポート切替 | RS-422A |
| スタートビット | 1ビット | 同期切替 | 内部同期 |
| データ長 | 7ビット | CTS切替 | 0V (常時 ON) |
| ストップビット | 2ビット | 5V供給 | OFF |
| パリティ | あり (偶数) | 終端抵抗 | 終端抵抗を挿入する |

■ 横河電機株式会社製 PLC FA-M3R

推奨する設定例

| 項目 | 内容 | 項目 | 内容 |
|----------|------|--------|---------------------------------|
| ステーション番号 | 01 | チェックサム | なし |
| スタートビット | 1ビット | 伝送速度 | Z-COMと同じ設定 |
| データ長 | 8ビット | 終端抵抗 | 接続方式 (2線式または4線式) に合わせて終端抵抗を設定する |
| ストップビット | 1ビット | | |
| パリティ | なし | | |

7. PLC 通信データ転送

PLC と SRZ ユニットの間に転送されるデータは、PLC 通信データマップにまとめられています。通信データは、PLC 通信データマップ上で、システムデータ (モニタ項目)、要求コマンド、モニタグループ、設定グループに分類されています。

- PLC 通信データマップについては、別冊の **Z-COM PLC 通信簡易取扱説明書 [データマップ編] (IMS01T15-JD)** を参照してください。

7.1 転送方法

PLC と SRZ ユニットの間のデータ転送は、要求コマンドで行います。要求コマンドには、「設定要求ビット」と「モニタ要求ビット」があります。

- 設定要求ビット (PLC → SRZ)

PLC側の設定グループの通信データを、SRZユニットが読み出すように要求するコマンドです。

[処理]

- 設定要求ビットに「1」を設定するとすぐに、SRZユニットはPLCからデータ読み出しを開始します。
- PLCからSRZユニットへ、設定グループの全データが転送されます。
- データ転送が終了すると、設定要求ビットが「0」になります。

- モニタ要求ビット (PLC ← SRZ)

SRZユニットの設定グループの通信データを、PLCへ書き込むように要求するコマンドです。

[処理]

- モニタ要求ビットに「1」を設定するとすぐに、SRZユニットはPLCへデータ書き込みを開始します。
- SRZユニットからPLCへ、設定グループの全データが転送されます。
- データ転送が終了すると、モニタ要求ビットが「0」になります。

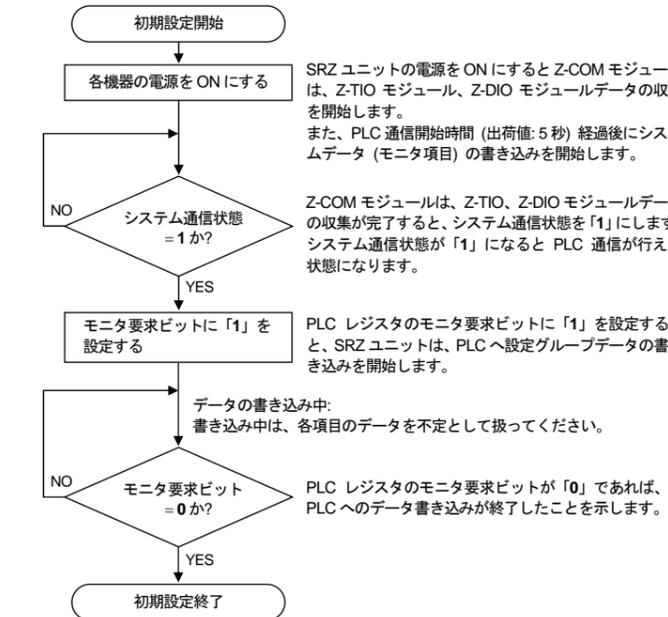
■ モニタグループについて

モニタグループの通信データは、要求コマンドの設定に関係なく、PLC と SRZ ユニットの間に、常にモニタデータの転送を行っています。

7.2 転送手順

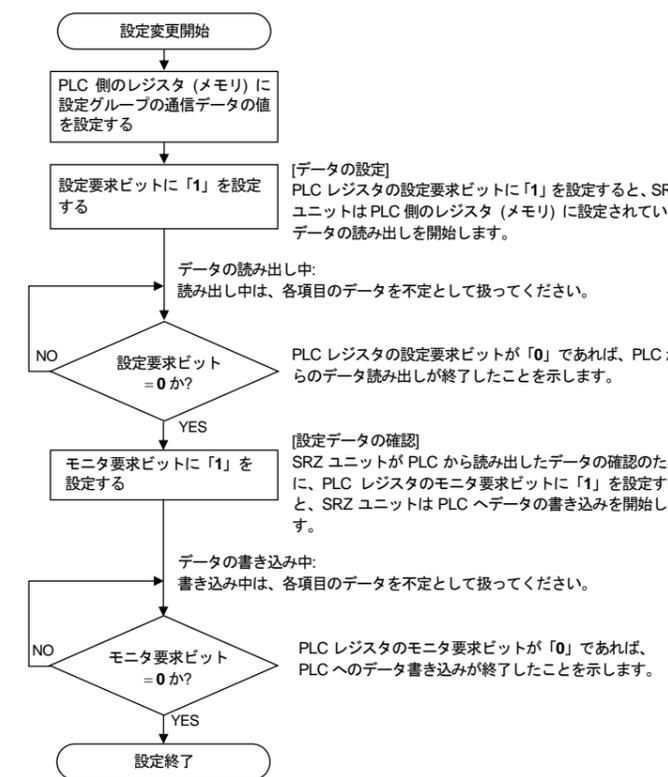
- PLC から SRZ ユニットの各設定値の変更を行う場合は、初期設定終了後に実施してください。初期設定を行わずに PLC から SRZ ユニットの各設定値の変更を行うと、その時点の PLC の各設定値がすべて「0」の場合、SRZ ユニットの各設定値がすべて 0 に書き換えられてしまいます。

■ 初期設定



■ データ設定

設定グループの通信データを PLC から SRZ ユニットの転送する場合



■ データ取扱上の注意

各データ (ビットデータを除く) は符号付きのバイナリデータとして扱うので、小数点は省略していません。したがって、データの表示および設定には注意してください。

MODBUS は Schneider Electric の登録商標です。
 プログラマブルコントローラ (PLC) の各機器名は、各社の製品です。
 その他、本書に記載されている会社名や商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

初版: 2006年10月 [IMC00]
 第5版: 2018年6月 [IMC00]

RKC 理化学工業株式会社
 RKC INSTRUMENT INC.

ホームページ:
<http://www.rkcinst.co.jp/>

本社 〒146-8515 東京都大田区久が原 5-16-6
 TEL (03) 3751-8111 (代) FAX (03) 3754-3316 JUN. 2018

技術的なお問い合わせは、カスタマーサービス専用電話 TEL (03) 3755-6622 をご利用ください。